の私亡学校である我が校に、親し

定等明細に指示があった。かくし 正式に通知をり、当日の時間御予 り』と。同時に県学務部長よりも 手中学校に台隔遊ばるく趣決定せ 父宮殿下におかせられては、学樹 部より公式の通牒あり、即ち『秩

給う、宮付武官石黒長官以下邑従 校に挙手の礼を賜わり、直ちに学 せられ、理事長、学務長、配属将 は、いとも御軽らかに御降り立た

学校長御先導の往還にも数人の御 に入らせ給うた。これより先き、

の昭和十年十一月七日、東北僻陬

今を去る十八年前

甲の誠哀を捧げ、

伏して御冥福を

教練御祖祭のため、十一月七日岩

最敬礼裡に玄関前に御着、殿下に 御召自動車校門に入られ、

全学年の御祖祭を了えさせ給い、

同棒銃最敬礼裡に再び御休憩室 かくして一時五十分、予定通り る殿下であらせられた、謹んで率 の出来ない思い出深き親愛敬仰す ばされたことは恂に痛情哀悼の情

秩父宮殿下が薨去遊 迎えたる一月四日に

独立最初の新春を

その年十月一日に、ある方面か

役員、何れも感激に緊視せる面持

内せる岩手奨学会の役員、 校長、職員、生徒それに陪観の客

を退下。午後正一時、

佐

木

哲

郎

央た。

此日朝来快晴、理事長、学

いよいよ待ちに待ちたる
七日が 一盛岡駅御養、その夜は南部郎

し奉った時に零時四十五分。

それ

より学校長、配属将校、理事長に

情について御下間あらせられ、 つろがせられつく親しく本校の事

> 敬三、一年では乙組の山屋彰男、 の六戸健一、一年では甲組の田鏡

に堪えない。

の内報があったので、職員、生徒

去る十一月十日、

皇太子殿下の

非報に接して真に傷心の極みであ 承って、御健康およろしい事と揺 成年式、立太子礼には、妃殿下と

殊に本核としては忘れること

い出を語るととにしよう。

明治節の翌四日、第八師団司令

」の号令あり、やがて滑るが如く 嚆たる響を伝え、続いて

『棒け銃 た。此時生徒部隊の石罩に当り、 陸軍中佐)は玄関正面前の位置に

喇叭手の吹奏する『君が代』は剛

く御熱小、

彼方此方と玉歩をはこばれ、

切を省略して、

唯合臨当日の思

祭しで喜んでいたのに、俄かに御 御揃いで御参列遊ばされたことを

が、それを述べる余日がないから を初め一同の奉迎に関する配慮準 らなかった。理事長、三田義正翁 はその光栄に感激言うところを知 台院遊ばさるくとに御内定の趣 ら秘親展で、十一月上旬に木桜に

立ち威儀を正しく御着をお待ちし

備は実に並々ならぬものであった

十分、

公会堂御出門の趣電話あり

理事長、学核長、配属将校(村井

所定の位置に整列した。同じく四

た、緊
時三十分、職員生徒は夫々 ちで駅々として時の近づくを待っ

奉迎の位置につさ、

時観者又門内

学一〇〇点、理科八一•五点、英

科七九点、英語一三七点、計五五四語一四二点、社会一八八点、理

石

秩父宮殿下台臨当日の

口

顧

20 七六点、計七六八点。

斎藤裕 七八位

学六七点、理科一一五•五点、英国語一三九点、进科一一五•五点、英

語二一四点、計五九九・五点。

語九三点、計五六六·五点

20柿木 茂 四八九•五点 3 4 福田正明 3B小泉明英 五〇五点 3A秋浜悟史 五三〇·五点

四九六点

3B藤村欧一 四六六点

34 木下茂

一四三位

34 升田忠樹 二二七位

進であろう。

第七回

田村寿君は今試験では四位にとどまった。尚一讃して良いのは一年新藤裕君の七八位えの踊 験者総数は二千七百九一名でその中本校からの受験者は百六名で前試験、二位をどった三年 一関、大船運の五都市の外、近県外をち合む十三高校を会議として一せいに行なわれた。受岩手日報社主催の冬期学力コンクールは去る一月十二日(第九時開始)盛岡、釜石、宮古、

H

報学力

3

出版委員会新聞部責任者 藤村圭秀 印刷 所 岩手 日報 社

学校行事予定

高三本業式 三月一日 新学期開始 四月八日

春期休業 三月十五日より

後期を末考査二月十日より

その結果九六名の卒業生中、進

職状況はどうであろうかと、職員しいが、今年の卒業生の進学・就

新学期用,自習書

。参考書、入荷致しました

進学、就職状況 れていないが圧倒的に多く、中央 系統に二七名の割合であった。 九名、家康に従事する者四名とな 名の希望者があり、中、職に就く者一方、 就職の方を見ると、十三 そのうち父化系統に五六名、理科学希望者は八三石の多きにのぼり 様である。 進出は云年とさして変りはない模 坚、 との中石大希望者が数字には表

校外

短

高校生の個々 宮城県教委では作秋から県下の七高綾の七百四十七名 の生徒に、高綾生の悩み、を調査、このほどその調査 がまとまった。 健康及び身体的発達については体重が盛いという男 性一六%女性三%だが、重いのは思性一%、女性十 五%しかもスマートでないことの悩みの顔が思性十 二%、女性十九%である。いかに日本の女性がデフ であるかがこの調査によって示されたがいかが?

体育祭務と話 電高秋の行李、体育祭男生徒待望の的はペン喰い競走 にありそれだけに腕自慢でなくて口に自信のある豪傑 が多く、一度に二ツ取る修理型、二度出場の要値型、 米をたぐり切る知能型から口を開けて待機している守 株型に至るまで多種多様結局一人残らずパンを所有したにもかかわらず不平がしきり。というのはデツキリ ・アンパン、と思っていたのにオール・ソーアンコだったとは。

山口県台国商校の二年生にこれはなんと四十三歳のおちさんがいるとの事、おちさんは成績もよくまた無欠席の優等生だ。われわれよりも年も多いんだし、あたりまえだとは数友の弁。

を付け、 テストにはカンニングが付きめのという定義?があるが、 暖心高核の某君は、カンニングについて頭をひね つたあげく、オプラートに字を書きこみ、初の上にお けば字が浮かんでくるという方法を発明した。使用後 は食べて終うと証拠隠滅とは……先生方/油断なりま せんぞ。

とって幸福な門出であることを祈 ないが、とにも角にも、卒業生に 大ざっぱなことしか分ら

▲体育祭落し話

▲高校生におちさま

▲新特許申請中?

バスケット・バレー・アップ体育協会推奨の

ダンス・テニス・牛バス

靴・豊富取揃え

験のため、各科目の総仕上げに忙 生は卒業を眼前に控えて、大学受進学適性検査も終り、高校二年

黒酒川井 両君 13

日本史、三B藤村欣治、

三A福 一O蒲

解析2、

淳一、三 A 福田正明 解析1、三A田村寿、二O松野

沢忠仁、三人秋浜悟史

般社会、三人田村为、

世界史、三人田村寿、二〇营原

理釋斯

般数学概当者なし

学四五点、理科一〇四・五点、大学四五点、理科一〇点、社会一二三点、

英数

語一四八点、計五五〇・五点

君が占めた。結果は次の通り。 が、その結果、 擬試験にひき続き、三Aの田村寿 三百までの中、 模擬試験は十一月十一日より一十 三A 田村 三人》福田 総合賞 品 総合第一位は前模 五日間行なわれた 公公言 科目賞 努力賞 00 00 黑酒川井 斎松野 溶浴 元雄 四三五点 七二七点

国部、三A田村寿、二O斎藤裕

ることを得、御神祭教練をして甚 単独拝謁を賜わり、更に学校長、 て只々恐懼する心みであった。 れ、その御精励なる御有様を拝し 大なる成果を収めたものと信ずる 憾なく本校教練の真面目を発揮す あり、台灣に当りて、各生徒の態 先導にて数練場に御成り遊ばされ 配層料核は、夫々本板の訓育状況 せる各学年の教練状況を夫々御祭 臣動作は機敏活発、護厳熱誠、遣 側祝祭教練実施計画に基いて施行 教練状況言上の栄を降うして御前 殿下におかせられては、絶えず 御細密に御視察遊ばさ 学校長の御 切の行事を滞りなく終了した時は とろあり、しかして此に本日の一 静々と割示して生徒を激励すると の万一に戦い奉る可き覚悟に成き せる感銘且つ又報恩の精神を自覚 学校長より本日の歴史的光栄に浴 校は駅頭に殿下の御出発を奉送し して無事に奉送を了ったのである 最敬礼に御挙手の礼を賜いつゝ、 れ再び職員生徒陪観者の粛然たる に恐髏感激の至りであった。 正に午後四時、夕陽西山に没して し、将来益々自奮自励、以て鴻恩 て直ちに帰校、 その後理

長、学校長、配

関将 路盛岡駅で向わせ給うた、かく やがて一時 一分、自動車に召さ 同隣望に参集、 0 以上三君がそれぞれ総合で各学年 **最高量等** 一位を占めた。

整 赛

光栄を伝うるために建設したちの 光政氏の揮毫にかくり、この日の 春色漸く追らんとするころであっ 念碑は、郷土の先輩海軍大将米内 た。現校舎前庭 『鴻恩無窮』の記 丙丙乙宁 本開 田沼 小島 佐藤 出頭 照井蔵三郎 字工沢広司 正多 克 四四三五点四四三五点

> 川村文雄、一甲高田勝弘、 似田健吉、二丙田沼重雄、 三丙奧沢隆志、二甲昆篤、二乙

丙甲甲

五

自己の信念を一貫して来た事

尊敬する。

正しい言行

致の人は誰でも

則、二乙似田健吉、二甲田鎖敬 三甲吉田義 三 一甲島山勝、 一甲門馬司 四四四

三甲小原務、三乙六戸健 一〇松野淳一、三A福田正明

英語、三人田村寿、三人木下茂 地学概当者なし 「〇松野浮一、二〇鷹原

三

特になし、ただ量は多く。

思い出を写真に

残しましよう

一、特になしただ年輪の如く広く

末だ、趣味という程のものな 根田麟一郎先生

国語担当

五、何もないので淋しくなります 四、友清先生という隠れた神人の

如き人がいました。

れたが、その結果、三年では乙組 アチーブメントテストは、士一月 十五日、中学生全員に対して行わ ス 1 彦、一甲千葉浩、二乙佐藤克、 一、三丙森口光彦、二甲熊谷泰 わ

政 丙本間正彦、一丙小島荘明 一乙葛西正美、二乙似田健吉、 雄、一丙岡本雄二、一甲相馬光 司、一日田鎖敬三、一丙田沼重 三 数学三甲高橋功、三乙六戸健 一甲畠山勝、一乙山屋彰男、 一甲藤原綱二、 二甲村松武、一甲字工沢広 一甲大竹忠

五行アンケート

黨、三乙六戸健一、三乙森英朋 三甲本多隆夫、三甲藤井 一甲藤原 三、何でも好きであるが、 一、良響を読むことは娯楽よりも 一、短歌を作ることと読むこと 鮮な果物と野菜。 好きである。書道はもち論。 五四三二一 佐藤鉱三先生 、 自慢は出来る人物 事がする人物 事がある。 、特に新

沢広司、一甲橋稔、一丙照井誠

一甲安部昌平、

埋科 三丙奥沢隆志、二甲字丁

盛岡市

進学の記念に 卒業の記念に

美女と盗賊―
大映

大神
の女
―
東宝

投書箱設置

三人田村寿、三人福田 なりました。 望がありましたなら、どしどし投 徒会、応擾団等に対する意見や帝とこで生徒諸君が学校当局、生 四階段脳に投書箱を設けることに
 言して下さる様御願い致します。 出版委員会をは、来年度より正

の方は、投書箱を利用せず、直接なお『こだま』の欄に投書希望 新聞部上

斗米まで

持参して

下さい

三人田村寿、二〇蒲沢忠 三人福田正明

3

要学 数学 数学

三月の上映予定

一月二十五日…三月一日 唄祭り荒神山 続馬喰一代

材木町· 電四三二番

スポーツ用品と服装

電話 盛岡市新田町一 五三四番

石

型

ませんか。

司会
文化方面では大山さんから

文化祭は積極的に

何かありませんか。

とを田村さんの方から…

やはり愉快なことは運動会

かえって見て何か愉快なことと ではまず初めに今年一年を振り が代ってやることになりました らうことになりましたので、私 からは座談会の方に加わっても

らですか?。

司会一年の行事は、文化祭に連

体育大会を盛んに

司会 管道や図画などがやるのが

始まったのは、一昨年あたりか

ッパリ各部屋を見て回らないね

ち良くやったよ。だけれどもサ

女の学校なんかは舞踊とか、ダ

いろなものをやればいいですね

ンス等をやるんだけれどもね。

か悲しかったことなど感じたこ

大山 二五周年記念の文化祭から

小武方

校内体育大会をもっと盛 それから後何かり

んにしなければならないと思う

忙な一年であった。 色々な行事があって、ずい分と多 動会、校内体育大会、修学旅行等本年度も例年の如く文化祭、運

何

たて

\$

8

今ととに三年生諸兄を送るに当

真

似

で

な

<

新

6 L

V

6

0 を

ないから、

ちっと積極的にいろ

出版委員会では一月七日午前

た八名の人達を選んで、図警室に 石桜会発展のために活躍してくれ

会をやっていたんですが、今年会去年までは総務委員長が司

村上

生徒も良くやったし責任者

PTA会合予定

P・T・Aの年度末、及び新年度始めの 合会予定が次の様に決定された。

▽3月20日

総会

- 1、会計•事業中間報告
- 2、正副会長選出
- 3、監查委員選出
- 4、其の他

学級会

- 1、28年度学級理事2名選 出
- 2、各部代表者一名選出
- 3、成績に関する懇談

4月10日

入学式当日

- 1、新会員の会及び懇談
- 2、新入会員の学級理事及び各部代表一名選出
- 一各学級代表参 3、各部会 加

4、正副会長、全理事、部長 各部委員、監査委員の 合同会議

小武方

司会。それじやる応援団の方に何 応援歌は新しいのを 各部とも実際残念な所ま

相当がんばったようだな。人数 んだけれども、今年は各部とも で行って優勝の所まで行けない か少いからチームワークがほし

らった。司会は岡田新文化委員長 生への希望やらを語ってもらった し遠藤新生徒会長にも出席しても なお、これには在校生代表とし 三年生全員の声として思い 卒業するにあたって在校 も 田村 それでも文化祭には人があし | 大山 (考え込む) | 大山 (考え込む)

まり来なかったね。

盛大にやらないと駄目が

五 卒 生 座 談 会

年を顧み

雨が降ってもらいたくないと思 ったが、卒業の年にはやっぱり だね、あの時雨が降りそうにな

大山

文化祭というと演劇、音楽

会は校内体育大会の都合もある るのは校内水泳大会だ。水泳大

司会ではこの辺で、修学旅行を

有難たかつた

億い出してもらいたいと思いま

そういうちの以外には余りやら 方を考えていますか? 司会次の文化祭の新らしいやり

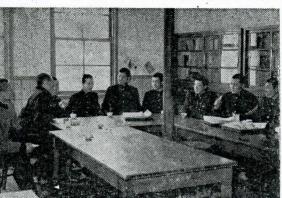
村井

いつちやりたいと思ってい

ちのです。

年記念の文化祭を真似たような ですね。今年の文化祭は二五周

司会村上さんの方から何かあり 田村一春の方が良いんじやあない 田村 卒業の年に雨に降られると 司会運動会は普通十月中旬とろ 頒 同 ろで良いでしようか、少し寒い と定っているんですが?そのと んですか。秋はちよっと寒いか いけないと思ったんだが。 春は駄目だよ。 そう(うなずく)寒いから 準備する時などつらかった



司会今の三年生は大阪まで行っ田村発つ前だなあ。

池野先生のが聴きたかったよ。 大山 謡曲だ。高砂だよ。 大山 謡曲だ。高砂だよ。 大山 部曲だ。高砂だよ。 た生を舞台に引っ張り出しった ね。

秋浜 何しろ出来ないよ。出来る

ないと思うんだよ。

筈ならもう出来ているよ。図響

買いに行ったら良いと思います

おいて何箇なら何箇とまとめて ンを買いにくいから組に保でも

同行かなかったね。

て来たんですか?。

司会 何処が一番愉快だったんで

時やるべきだよ。

すかる。

れた。

秋浜

山中先生の落語は良いよな

といわれたんです。

でも前例を作ることは良くない

たのは良かったでしよう。それ

雄(文化)村上昇(体育

勢 (会長) 大山信 出席者

司会先生に頼みに行くと、親父

石川富喜蔵治(生活)

一同いいなあ。

やらないからね。

に叱られるとか何んとかいって

よ。新浜

トニカク皆んな良くやった

小武方

しかし今年は最高らしい

葉に気をつけていたんだけれど

修学旅行の時、ずい分と言

浜悟史 (演劇) 村井良和 下河川麓區郎(応援)秋 (水泳) 小武方信一(野

田村春だ。

桜の盛りとろでもいいな

ないような気がしまずね。 けれども利用しないでもったい

(笑声

にやりたいと思うんだがやれな だからそれを秋の運動会みたい 球)遠藤收一(新会長)

下河原 桜の盛りころでもいい 司会修学旅行はだいたいいつと ろがいいでしようか。

去年でしたね。放送部を作るということは

一同そうだね。 秋浜 来年なんかは野球の実況放

秋浜 あれは売った方がよい。

石川 その点スケートも同じだ。思っている。 野球もそうだ。 司会 岡田二男

遠藤京都とか、奈良とかの行事 あ。 を研究して、その時行くべきだ

かった。季節を悪なのが大切だい。 何もない時に行っても面白くな た 大川 うちの学校は部屋が少いよー 大川 うちの学校は部屋が少いよー

下河原

うことを応援団や出版の方に知

長が、何月何日に何があるとい

大会がある前に各部の部

やったそうだよ。ずい分効果が、 昔の師範は一部合唱にして 下河原応援歌はみんなの声が出 小武方野球の応援は、うちの学 良かったということだ。 るように作ってちらいたい。 歌なんかにくらべると駄目だな 来るから応援部を作りたいと思 (秋浜出席) 校が最高だよ。それでも他の校 うんだけれど、人数が少いから いなあ。強制的にやると何かと

修学旅行口

れば良いな。 るからな。 ければならないね。

ならないと思う。 いたいという意味ですね。

益 秋浜 野球等も見ている方も試合 村井 どの部にでも応援してくれ に参加しているような気持がす 応援歌だけはどうにかしな

司会流行歌を一人で歌うのは、秋浜流行歌は良かったよ。

なあ。

下河原 各部によって応援の仕方 た応援の仕方を研究しなければ が違うから、それぞれの部に合

司会 応援等も平等にやってもら 司会 中川さんの飛入りで案外うが。 けたね。 二曲か三曲で良いと思うんです

小武方野球部の合宿の時なんか 予算は少ない すでいぞ

らせておかんと駄目だよ。

秋浜 仙台で二高と一高とで野球一同 少ないな。 司会 予算の話ですがとの学校の 予算は少ない?。 をやって、金を取ったとゆう話

うよ。

小武方との金のない時、無理し 村井 図書館の設立の方はどうな 一同フウン が少ないんだよ。少し部をへら石川一部が少し多すぎるから予算 ったんだろう?。 した方がいいぞ。 だよ。何しろそれは仙台の早慶 て図響館を建てるということは 戦だったから人がいっぱい入っ 村上ああいう風に混雑してはパ 下河原あれば場所が悪いな。 返った先生もあるそうですよ。 村上 下級生に押されてヒックリ 泵 げておけばよいですね。

で通量の多い所に黒板を下 どもべ

田村やっぱり一年生の時やった

田村マアマアだね。

方が良いなあ。 たのは良かったな。 秋浜 一年生の時にやってもらっ

司会修学旅行のことはその辺で

今度は予餞会のことを。

下河原
そうだやっぱり
一年生の

聴かないでしまったよ。オレは聴かないでしまったよ。オレは、ホントに有難たかった。

司会常任委員会は何をやってい 下河原とに角運動なんかグング 秋浜 少し規模を拡げたからなあ るかということがあるんですが なんかで名をあげない学校なん 鮮の景気でよかったからな。 ないということだ。 かは頭も良くなくて勉強も出来 館を作るという話が出た時は朝 ン延ばさないと駄目だな。運動 勉強する事だ! 下河原 パンを買う生徒が悪いよ ね もう少しおとなしく買うことだ

読んでると思うと『海底大陸』 秋浜 オレ達の中学校のころと違 石川とのごるの中学生は上級生 を上級生とも思わなくなったな という奴さ うなく

さんのおっしやられたことを良 で終りたいと思います。忙しい することを誓いまして、この辺 く守り、良く勉強して、礼儀正 しい岩高、中生になるよう努力 最後に我々下級生に 放送部よ立て!

> 点 足沢

> > 市内新築地一七 市内加賀野看木場

ととろをどうも有難度う御座い

O四 赤石久太郎

平菊野地

哲郎忠

市内仙北組町 市内上田館向 市内上田組町

司会。他の学校なんか見ると廊下 下河原 掲示板なんかちちっと何

に立派な黒板を置いてあるんで か響いた方がよいと思うな。 野球の実况を放送 下河原オレは一ヵ月位、だまっ 小武方 大会等というと神経衰弱 ていたら一番目もふえていたよ (しばし辨談) 司会では、最 司会 それでは我々下級生も、 盛むことは、

になるな

の利用者が一番多く、これに高二 った。中にはレコード・コンサー 中三の順で続いているとの事であ 運びとなり、連日ストーブが燃え いたが、それが冬休み後、実現の 社の講師による講演が行なわれた トに利用する者もあるそうです。 て、利用者達でにきわっている。 より生徒達の間に施く要望されて 図書室を利用せよ! 区書室の放課後開室は、かねて 凶階委員に聞いて見ると、高

鈴富

健郎

小笠原雅昭

クク大沢川原八五 市内日影門外小路 紫波郡煙山村赤林

楽)を行なっているが、大変良い は別として、その自発的意気は大 事だと思う。放送部云々といわれ 内放送(映画)紹介やレコード音 いに買いたい。最初ばかりでとか されていない現在、成功、 てから即に一年目、なおかつ利用 楽部などで、昼食時を利用して校 月中旬とろより映画部及び音 不成功 芸能

平野 アイ 花巻町双葉町

佐藤

欽二 ツル高松池畔

市内上田小路一 岩手郡太田村 間、前回と同様に高中混ぜて十五 訳は一日より志戸平で合宿を行う が、その水泳部がまたまた冬休み掃除して明るい話題をござわした 中にこの善行をくり返した。その 水泳部晨達が放課後、各昇降口を にあたり、その前日までの約一週 去年十一月の声を聞いたころ、 水泳部冬休みの善行 の事とてあまり知る人は少ないが まで掃除したものである。休み中 六名が一階を除き階下全部を隅々

で持ってぢっとながめる必要があ を、我々は失なわれている岩中魂 陸の上の練習にまできた精神過程 ブールなくして岩高、中水泳黄金 るのではなかろうか。 時代を築いているこの河童運の

石川 部長に熱心な先生はいない大山 黒板の話だけれどち黒板に 大山 黒板の話だけれどち黒板に 一大山 黒板の話だけれどち黒板に なわれる手定である。 数の出席を得て、講堂において行 日、一見盛岡市長を始め、名士多 本校第五回卒業式は来る三月 なお、当日は盛岡放送局によっ 三月一日に卒業式

た。との対策として会計ではその 月分の百十数人、一月分の四百余 しているとの事なので、会計にそ く、学校の事務運営に支障を来た 十二月分の数人を初めとして、 の状況を聞いて見た、その結果は 人と、はなはだしく不成績であっ 最近、授業料納入が、思わしくな て式の模様が録音される。 授業料を早く! 社会

人の話から思い出したけれ ン屋は駄目

あのパン屋はどうも駄目

る一月八日、市立女子高校におい 市内高新連の第一回研究会は、 いる、との悪であった。 の批評が行なわれ午後は岩手日報 生徒側にも直接交渉するつもりで て行なわれた。午前中は各校新聞 高新連研究会

小山真一郎 ○景 池野 佐 杰 熊谷 鍋谷堅次郎 一中里方 礼子。 忠雄 クク上田小路一九 グル下小路四

ルク鷹匠小路五工 クル新庄字不動 市内下小路四 **ルル新庄鹿島**三 クク上田住宅一

盂

助治 市内上田小路一七

宮永 罪 電雄 市内加賀野新小路 クク際匠小路四五

興宗

家庭に至急納入通告をすると共に

市内木式五二

武雄 舞賞郡石鳥谷町好

日野田 小林 浩 ククニッ割一〇七 市内新築地一七

浦田 クラ加賀郎久保田

見前 **斎藤松次即** 一一 クク能屋町九二 市内北山七三

Ų

根田麟一郎 紫波郡見前村字西

川合 裕六 行雄 市内上田館向 市内西下台八〇

岩手郡樂石町仲町

中村八兵衛 典子 紫波郡志和村片寄 市内上田館向

方一本樋 稗貨郡花巻町字南

小遠原藤 貨中 市内大沢川原一三 市内大沢川原九六

佐々木哲郎 職 員住

所錄

道の日高の国というところにいた

て、何日も途中の小漁港え寄りな

館に行き、それから更にのりかえ 便で小さな三百噸位の船でまづ函 ときであった。行くには非常に不 てみることになった。それは北海 に伴れられて一ケ月の予定で往っ

> はなく、その近所の人々と父と私 それはほんとの漁に出る時の船で 人に調釣りに伴れて行って貰った

とちあり、船酔いや窮屈さのため いたのであった。非常にシケると

来て見ると全く波の高いのに驚く一場、小牧場を経営していた時に仙

かしい事だろうが一とんなうま

は圏敷のように見える消むとこに

ような綺麗なものだ、海岸からで の丸い石コロが敷きつめられてる りながらゆれて出た。浜は拳骨大 な飯鉢に御飯も沢山持って行った で同行六人で一瓢が携えられ大き

本当の事でした笑わないで下さい く恥かしかったけれども、それは

ら食べても腹にたまらぬ程であっ た。にきり飯を開いて、その焼き の串を作って塩をふりかけて焼い

―― 栄養士などから見たらお

が水の上をはねとんでいる様にし で水の中をかきまわしたくなった には一、三人いて、他の人のはよ んで見たが、一尾も釣れぬ。そこ たから―そして舣針というのを は歩いてもそんなに遠くはなかっ その頃、中渋谷にいたから玉川に た。別に研究した訳でちないが、 った一日を玉川に鮎釣りに出かけ でぶらりと安竿を肩に夏休みに入 東京で大学にいた時のこと。一人 四百尾位断ったと思う。

るちのであることを銘記すべきで て棺を掩うて始めてその真価が分 するならば、それでその人は終り かったことをちって、自己を過信

になるできろう。不断の努力をし

が屋飯時なので、そのまま丁度蚊 く釣れるが僕のには釣れぬ。され

たての山女をおかずに食べた。幾

いうことになり、火をたいて祖竹 尾位はあったろう。そこで昼飯と 額が相当重くなった。おそらく百 た時は午後の一時頃であったが、 んつれて、約一里位河上にのぼっ

五、六本つけたのを流れに投げ込

果を求むるは枯野に緑の芳草を求

あろう。余は天に向って長喘息し 死に終るならん。と仰せらるるで

『かたき哉人生、努力なくして結

むるが如し。と――これは諸君に

少年時代のやや成績の良

に着き、さらに『シベトル』につ

千島第一の都会『シヤナ』

小舟は荒磯から波しぶきをかぶ

を大きな声で呼んだのも何んとな 中でであった、そこにはいない母 々がまたムシロを敷いて酒宴の最 沖え一緒につれていってくれた人 男の太い声で笑うのが聴えて来て の『エトロフ』の『薬取』という

ち出来、風物にも順れて面白いと

私が幼少のころ私の家では千島一

それから一、三日すると全く私

らないが眼がさめた時は前に船出

たまでは知っている一 睡くなったのでコロリと横になっ ったが、私は御飯を腹一杯たべて

時間は判

ッコが好きであった。私は近所の | 男の老人等の墜称) 私はこのオト

つつ――朝の小鳥の声を聞きつつ

らぎを聞きつつー 大木ち多く幽遂の境に清流のせせ かれていた。 路の葉の家!しかも 丸小屋は路の速で何枚も重ねて聲 は私より前に起きて手伝っていた 敷いて寝床を作ってくれた。友人 細い木で丸小屋を作って笹の業を

ー梟の声を聞き

を丁寧に始末してさおをかついで

帰ってきた。宿では「沢山釣って た。僕はおかしくなって、糸や針 思って行ってみると、そのまま何

る。それから、そこを中心にもう

十七、八歳位の時のことであ

晩とまって帰って来た。魚は各

れた。これが僕の釣りと屋寝の二

回目で丁度少年時代から青年時代 待っていましたよ。といって笑わ 来るだろうと思って油を煮たてて サシミやニッケにして酒宴が始ま れた。その一尾を一人が料理して では持てない様な大物ばかりがつ た。暫くしてヒラメやタラ等子供 針をつけたのに餌をつけて投下し

のオトッコ』と呼ぶ六十歳位の老

には五、六尾の鮎がついていると ると日は西に傾いていた。釣ざお わがしく頭の上を通った。起き上 の境に入った。――一、三人がさ

の事を南部という、オトッコは作 人がいたが(北海道では岩手県人 ぶものだ。その中の一人に「南部 や作業幅などをもらうのを大屠喜 や帽子の古いの等を買って行って がいた私は余り上等ではない古着

周りは態性のおいしげる密林で、

の変化もなく悠々たる状態であっ

幼い頃

を語る

ことであった。ある年の夏私も父 が変替で理解の終るころまでいる 年人夏の漁期には家の者の離れか ところに小さな漁場を持っていた

軒はあった。

ある日私は小さな磯船に漁夫四

を!そしてちう一度呼ばうとした 呼んだ、そこにはいないはずの母 が商店など内職的なものが一、三 口百四十人位で全部が漁師である 思うようになった。その村は全人 ち元気になって、ほつぼつお友達

、私はとたんに立ちあがって泣きべ その石竹の花がブラ下っていた、 頭を上げて見ると極近くに断崖の にムシロをかけられて寝ていた。 た所と、一寸違った荒磯に石を枕

毛針をつけて投げ込んだ――忽ち き所を住った。そこで約年を調べ の暗い内から十一時ころまで道な

ソをかきながら『お母さん!』と

れた。それから他の一人もどんど グッと手答えがあり八寸位のがつ ような岩に綺麗な苔が処々にあり

を分けたりして二里位上った。朝 持って川の中を歩いたり熊笹の中 川上え二百分位の米や塩や味噌を 友人とオトッコを伴れて一、三里 111

股

武

雄

とわかった。

を停めて平たい籠のまわりに糸と

土産にした。と『働く人は作業衣

約一里位来たと思うところで舟

が良いこれは貴方達が来たからだ 然しその丹の人々は『今日はナギ

といって祝福してくれたが、私は

で山女釣りをするのが好きであっ

た。家には五、六人の働く男の人

に寝てしまった――それから起き んなででろりと横になってるうち

た。ごろりと青空を見て横になっ

った。胃袋に飯が入ると睡くなっ

て携帯の大きなにきり飯を一つ喰

て見たら日は西山に没せんとして一た。誠に無限の大きさをかんぜら

れて何ともいえぬ。その中に無限

いる。オトッコは一人でそこらの

野塚川の清流があった。私はそと 台の学校から帰省した。そとには

休んでいるほどに寝くなって、み

い屋飯はたべた事がない。そして一っとつれるだろうと思った。そし

茂画

カメ』、池野先生の謡曲『高砂』

川股先生の日本舞踊?『ウサギと のは隠し芸、一つの歌などで、小 容でその中でも特に好評を博した

林先生の独唱『蛍の光(原語)』

柴内先生の『漫談』等爆笑、哄笑

の連続であった。

(第21号)

おいて行なわれた。 去る一月二十九日正午より欝堂に 本年度予餞会は卒業式に先だち、 象 に残

四時十分、和やかなうちに予餞会」い想い出の一つとしてとどまるで 今年の予餞会は従来の形式的な

余興終了後、校歌斉唱をちって一催しと異り卒業生の心の端に楽し



余興は高一、古川知義君の「ヴァ

学校長挨拶、そして田村旧生徒会

は遠藤新生徒会長の送別の辞

イオリン独奏』、演劇部の『佐渡 告等に続いて余興に入った。 長の感謝の言葉、旧各委員長の部

い』、職員生徒の熱演による『

『隠し芸』等々多彩な内

佐川隆一君等による『歌の観

『コックの王様』、高| 加賀

中内中学校スケート大会は、一 沙中 上学 本中学校断然强 (スピード)

があるのです。こう響くと演劇や さ、楽しさに予餞会の本米の意義

とに参加して次のような好成績を 名が参加して行われた。 リンクにおいて、七中学約百二十 月二十八日、『営グラウンド特設 本校よりもスピードとホッケー

3分26秒5

▽一年三千米

8日回政人 **9**竹花里夫 1年 左太太二 2田中溪男

8分12秒1 7分30秒0

岩手中

▽三年三千米

日田中戦男

3分27秒9 7分2000

▽三年五百米 ▽三年千五百米 の行花国夫 ●佐々木太一 3分25秒? の田中義男 62 61 89

友の会が我が校に発足してはや 便 b

P

FC

昨年の最っとも想い出となるべ 間、四月の修学旅行に行く会員と所、少年保護所、和光学園等の訪 旅行、クリスマスパーティ、刑務 中学校との交歓会、夏休み中のリ 赤い羽根等の募金に参加、市内高 ィパーティ(月一回)、白い羽根 エクレーション大会参加、自転車 その他共同募金にも協力しました 今年は、会員のためのバースデ

皆さんの御協力を望む次第です。 に当り『友の会』の生長を期して ます。 とこに発足以来四年日を迎える る。殊に卒業生には印象が深かっ ら湧き出る目然の面白さ、おかし たであろう。一つの歌、隠し芸が

義ある催しを豊富に計画して居り 彼の地の会員との交歓会開催等意 い私達が予餞会で、先生の人間味 それに対する一私見を述べて見た るため、人間として先生を知らな 徒との接触が教室内に限られてい 先生方の隠し芸である。先生と生 いると思われたのは、一つの歌と い。番組で予餞会の主旨に沿って 去る一十九日子餃会が行われたが を見い出した事は大きな喜びであ

こだま 予餞会への所感

時計

貴金属

眼鏡

出

計

大通り三丁目原別邸前

電一、八九五

るのであります。過ぎ去りし六年 りを惜しむ卒業生に対する最上の 間を、憶い学校への限りなき名残 と予餞会を研究発表に利用してい いように見受けられた。換言する よそ行きのものと何ら異る点がな かく、文化祭、研究発表会の時の 姿を見せる。すです、その意味で極 贈物は飾り気のないありのままの や音楽が予餞会用のものならとも は異論を述べるでしようが、演劇 音楽の方が良かったと思われる方

仮装行列は各級より出し、着想、 楽部員の出演を遠慮して頂きたい 端な嫌いはありますが、演劇、音 るため、読者諸兄に御一考を煩ら 組が出来るのです。

を限られた人々のものでなく、真 その結果に満足を得なかったため に私達自身が楽しめる予餞会にす 漫才、のど自慢等、変化に寫む米 コメデイ、軽音楽、浪曲、 素人出演歓迎の予餞会にすれば、 卒業生を送る慰安会である予餞会 今年は廃止したのだと思われるが 演して予餞会を行ったのですが、 あります。昨年は各クラスより出 **餞会は仮装行列の例に**放うべきで 回だけで廃止するのは早計です

仮装を楽しむのであります。 扮装を競い観客は個性を生かした 演芸 わすのであります。 〇〇 生内宏一

(アイスホッケー) ン千六百米リレー 佐々木) 3分30か6 岩手中 16——O 2岩手中学 (大宮、竹花、 Ů 田中 七チームが、参加して行なわれた で破って優勝した。 決勝では高松校チームを、 れに参加し、各校を相次いで破り 諸先生も岩手女子高と混成してと 本校の戸嶋(主将)足沢、古川の 小路中コートで各数(高、中、小)

マー回煙

7上出中

ホツケー部奮闘す

すよ。

下級生贈君!!

栄養をかち得た 石川主将以下八選手が出場して、 岩手軍として)輝く全国第二位の(盛岡一高との混成による高校全 競技のホッケーに、本校からも、 た、第八回国民体育大会スケー 県営グラウンドにおいて開催され去る一月二十二日より、盛岡市 のです。

考查科目

15全北海道 ーン全東京 一し金神奈川

> する必要はないでしよう。 に上級生にデモンストレ

月十三日、志戸平温泉ブールで行りれた。本校よりも、部農約三十ので行り、本戸平温泉ブールで行ります。 振わなかった。 名が参加して奪闘したが、あまり 冬季東北水上大会

> 度を速め、生徒に能力を与える様 取り生徒を引っぱって行くと、生

にするのが教育なそうです。 徒は勉強しなくなるそうです。進

放送設備について

ろう釣ろうとて昼寝をして睡生夢

天帝之れをみそなわせば『彼は釣

に入ったわけだ。

は、気が引けるそうです。 恐い三年生でも、被長室に入るの

市內教員籠球大会 早

問題が解決される可言です

それとも、売りますか。 あれば、幾ら位するでしよう。

三 (中学央勝記録) (中学央勝記録) (中学央勝記録) 日間、校庭において行なわれた 市内教員領球大会は、一月 一高校決勝計録 0

それは、そうでしよう。

放送部設立問題の前に、

グビー大会は一月一十八日より 本年度校内体育祭の最後を飾るラ 校内ラグビー大会

御奇特な事があります。飲礼は 貴方の頭の中は、空ッポになりま し、廊下でスモウをしている間に さんいます。結構な事です。しか に強いられてするのはナンセンス 逆コースの世の中に、これは又 我校の廊下は、国技館とは違う 未来の千代山がたく

募集人員

我校には、

断

ですが、それだからといって無理

中一百五十名

☆高校募集は致 関する平易な 国語。 三月卅日 午後四時

るためにあるのかく

先生が余り親切に手を取り足を

しません ☆特選学習ノート

★高級学習文房具 中学生・高校生の店

Aさんの言です。 私達にとって

であれば、売った方が良い

不津屋文具店 電·二四〇番 盛岡市材木町

三月廿九日

身体検査

試問

筆答及面

眼は知識の窓 メガネは能率の 大切な エレンメガ

三月廿八日

考查期日

廿五日治

三月一日より

出願期日

世 晶 水 専門 ガ 盛岡市中ノ橋通盛岡市中劇通り 5 電 682 638

月照れば我も夜景の一つにて影従

演劇とは、こんなものかも知れま

に入ろうとしています。私達は舞 いました。場面は、ラストシーシ

台の上で、歌をうたうのです。

ポッポッポ ハトポッポ

は、本当に理解することが出来な いのかも知れません。いや、全然

ます。しかし、あの喜劇の主人公 演劇を理解する人々は、私達の稚

舞台の上にいながら頭の中で考え

私は、こんな一寸したことを、

意味がはっきりと分りませんでした。

と、いいました。私には、この

――学生演劇は、無理に没者を装

年の九月でろ定期が切れていると 闘乗っていて思い出は数々あるけ をあじわゝずにすむだろう。三年

れども、一番ひやりとしたのは昨

入 図

た。三日目の朝汽車に乗ってから も知らず二日間も使った時であっ 拙な演技を、注意深く、見てくれ

でしよう。

このことは何年経っても変らない

喜劇役者は、住んでいるのです。

招くからね。』

れているから去年までの冬の寒さ

道というちのはありがたいちのだ けるものではない。それだから鉄 くる。そんなと三年間つづけて歩 毎月通ったら三十二古、八時間か くとしたら四時間ぐらいかゝる。 で鉄道線路で十六きあるそとを歩 今やっと分った。雫石から盛岡主 けないという事が、三年通学して ったり国鉄をうらめしく思ったり はした線』といわれてくやしく思 かし毎日乗っているとそう感じな

★各種文房具品

今年からボツボツ鋼鉄車も連結さ

と在り年改る

演の日まで熱心に研究して、それ

す。一人々々が、一つの脚本を公 みにくさを抱いてはいけないので

私達は、公会堂の舞台に立って

「これは、正に喜劇だ。」

私は、そう感じました。本当に

去年の十月でした。

ית 0

佐藤

春陵

悲劇と喜劇に――

それらは一つに分れるのです。つ

でなければいけません。決して、

が必要です。学生演劇は、まじめ 学生には、普通の人以上に熱心さ で舞台にくり拡げるのです。私達 心な練習の延長を、真けんな気持 皆真けんになります。長い間の熱 の中の顔は、その表面とは反対に

> ために、演劇をやっているのでは 何時でも、プログラムの穴埋めの

姿を、賛美するのです。また、時 ん。その結果は決まっています。 にはその反対があるかも知れませ の言葉は、相手の美しく化粧した っておるのですから・・・・その一つ それ自身がすでに一つの意志を持 の意志なんかに見向きもしません て出て来ます。それはもう、人間

したる静波に触るる 校門に近づきてふと試験 へて帰り来れり

山々は将基の駒の布置にして泰然

のせて今朝の錯時れ 木柵のいただき毎に一つづつ大福

したが、直ぐ、元の静寂にもどりました。場内は、一寸どよめきま

のです。……何時の世の中でも、 によって、自分の演劇に対する、

> 私の尊敬するAさんは、私に、 との芝居も、喜劇だったのです

中は、常に全切るものが入り乱れした。三番ホームから階段をあが なくなってしまいます。との世の一うするうちに汽車は勝岡駅に到着

るときは、ばかに重く感じた。出一

テンの説教師の

他、十八篇)

『喜劇役者になるなよ。不幸を一ていますからーー。

と、突然、歌の最中に、場内か

私は、こんなことを考えたから、 理解出来ないのかも知れません。

『喜劇だ。』と、感じたのです。

た大変さびしく感じました。 を、うれしく感じると同時に、ま た時に物事を考える位の、余裕を たのです。そして、自分がそうし

幕が下りました。

から出してしまえば、もう素直で ません。けれども、それを頭の中 すでに、素直な演技なのかも知れ 私達が頭の中で考えること自体が が大切だと思っています。そして う必要はないのです。素直な演技

> かったし、知人もいなかったので その時はあいにく金も持っていな それと気がついて驚き、あわてた

やわんや)

一人であわをくっていた。そうと

特ごととが出来るようになったの

何故なら、彼は、そうすること

りて月は暗く光れり 雨気含む今宵鶴のとばり厚くかか 看とりに行くと良き歌人は 柄みこやる老じゅ恋ほし早退けて

(武田先生)

<u>-</u>

岡

田 \equiv

男

な舞台を想像しただけでも、素晴

悲劇が好きでも、喜劇が好きで

を舞台の上で観客に訴えるのです

「俺は、悲劇が好きた。あの静か

頭の中の演技

セリフが、すらすらと、口をつい

自分の頭の中に入ってしまった

せん。ただ私達は、こんな結果を

問題にしないだけです。

あるいは、きたないドーラン化粧

す。観容に、私達のことをよく理

解してもらいたいのです。私達は

せん。私達には理解が欲しいので も、そんなことは問題ではありま 何でもやってみるべきなのです。 も構いません。要するに、私達は らしいと思わないかい。」

私達が舞台に立つ時、きれいな

たとえ、その結果がどうあろうと

聞

団事件』や日共の粛清活動につい 運における『猶太人医師暗殺陰謀

との前、毎日新聞その他に、ソ

根

いう意味であるが、我々は、常に お言葉があった。属機とは危機と 明年は重大なる属機です』という からいただいたお手紙の中に『今 をいたして居なければならないと それぞれの立場からこの事に思い この間、尊敬しているある先生 的なのだとか党の権力をいよいよ 可能性があるから中共の粛清が目 共がソ連に対して一大恐威となる 見方にもさまざまあることだから が併し、あの事件には、単に、中 れれば黙っているより仕方がない 『そればお前の杞憂だよ』といわ 田

勿論、あの様な事件についての「抹殺されてしまい、抹殺された党」い「共本選ばに対して拘かざるを も左にも行けないままに立ちすく 考えて見ると、私達は今、右に 革命当時の党員は既にほとんど

って来るなという感を深くさせら て報ぜられてあったが、あの様な 動きを見ていると何かいよいよ迫 んでいる。

前ぶれである様な――。 何か地上における決定的なことの ある様に思われてならない。即ち 確立するためという以上の意味が 雕 郞 んだ後にかんずるような敷われな オーウェルの『一九八四年』を課 本にはっきりと書いている。 来しなければならないと』とある 世界の最終体としてとの地上に続 あるのであるから、かかる体制を 治の本質は絶対的な専制的独裁に を持っているある種の人々が『政 私達は、現在この地上で絶大な力 はじめて完成されるといっても、 たいとは思わないからだ。 に支えられた社会主義に移行して まう様な資本主義の陣営にも投じ った一枚のカードにすり換えてし ないし、さればといって人間をた はとても手を差しのべる気になれ するといわれている様な冷い国に それ故にこそ、丁度、ジョージ 資本主義は完全な社会保障制度 員の数がなんと一、三百万にも達

うち聚酸で仕方がない。 いう希望もないわけではないがど とかいう事を考えると『或は』と のために死ねない』とか『共産主 養はその冷徹なる理論故に亡ぶ』 いう人間共の本質も『人間は理念 得ないのだ。ちち論こうゆう事を こんな事を考えると人間の絶対

て私達は何処を向いて再び歩みを一おいて必死の模索が始まるわけな どうしたら良いのだろうか。そし に浮いたものであるとすら思われ この様な不気味な現在、私達は

とちう一度やり直したら、いくら か生き易い世の中になるのだろう それとも、許るされるだけの時

はいえるかも知れない。即ち古く のだが、あるいはこれだけのこと

> 疾走か。疾走か。 また春がきて

山の傾斜に、 野の畑に、 三A 秋浜

悟史

おちたく世をうずちらせる

一B 栗栖保之助

冬の影

るしめていた邪悪なるものが退散 き出でて、その時始めて私達を苦 中からは、正純な人間の怒りがわ ということだ。 そうすると、きっと私達は驚く

る所謂抵抗派の仲間の生き方は地 ものの中からさえ薄い取ろうとす 的な自由と尊厳を人間の宿命その ろうか。

ければならない。 うもない。ことかも知れない。 と済まされないし、何んとかしな しかし、『どうしようちない』 そとで、このたまらない現在に

起したらいいのだろうか。 『人間は如何に生くべきか』等

間まで目を閉じていたらいいのだ 間を虚無的に遊び過し、最後の瞬

『分らない』そして『どうしよ』に違いない。しかし、その驚きの させられるであろう。

ただ、既心に流れていく。 石を洗い汚物をさらい 河はその水高さを増し 失われゆく盛岡の風趣を 大都市計画のために

早春の詩情

そのくせ

助警が多すぎる。 いい分別をたくわえて いい分別をたくわえて

まだ知らずして。 安きゆることを 暖たかき春の日のみる時なりて

九日

HR役員選挙 始業式 校日

公

ちう春か。ちう春か。 シンデレラちゃんの死亡通知。 マイダス氏の死亡通知。 めがねの奥でぬれている。

野の畑に、

学

誌

抄

白き銀の将来は 敗北者の敵となりて あたたかき熱も含まず 今、死なんとす老木の幹を

山の傾斜に、

画筆をふるっている。 それとニラメッコしながら よくこの河畔にやってきては 街の芸術家達は

ふるさびたローマの句が するという。 殖産銀行の建物をみて

人はこの中準の河から

都会情緒をしのばせるのだ。 その古い構図は遠い異国の 色あせて落着いた半世紀前の

い又他から『カラス列車』とか『

私はさみしい心でながめている。

した。とうゆうことは考えてはい

ろに立っているかを改めて見回す 捨て去って私達が今、どんなとこ 気をまずます救いがたいちのにす なって却って現在のこの憂鬱な空 る『ちのの見方』や『考え方』を

かみくだかれた・

うららか。 うららか。 子守歌か。子守歌か。 汁ばんでいるのは私だけか。

遠慮な言冷た言風が 無口のままの寒さの襲ち 町の屋根にも宿りつつ。

汽車通三年記 三丙

たらさぞ不便であっただろう。し る時は雪が吹き込むといって不平 白いシャツが黒くなると心配しあ 年になった。この三年間ある時は 乗って朝夕通学し初めてから、三 きた。こんなボロ列車でも無かっ をいいながらもぶじに通い続けて 目分がこの橋場線のボロ列車に

よかった。 大の恐怖であった。

見つからなかったのでほっとした との四十分間は汽車通二年間の最 しかしそれは夢であった、夢で 英 一一四日

雄 七日 十二日 十日 日日 三日 入学式、PTA総会 " PTA総会 前期中間考查開始 応援団幹部任承式 HR · 石桜会役員任承式 ク帰校

十四日 士百 マゴ月 十八日 PTA総会 夏休み開始 高校模擬試験終了 ア・テスト 高校模擬試験開始

十七日 十八日 前期末考查開始 夏休み終了 PTA指導部会 講習開始

PTA学級会 ル終了

帽意・バ

十七日 十九八日日日 四日 文化祭 石桜会役員引継ぎ

▽月 十八日 十五日 十一日 模擬試験開始 一五日 冬休み開始 ア・テスト開始 ル終了 ク終了

マナー月 四日 運動会 日

高・中ボタ

後期中間考查開始

三、寺田寅彦壌(寅彦随筆の全貌) 四、獅子文六集(自由学校、てん ◎昭和文学全集(角川曹店) 甘 講習開始

一、横光利一集(旅愁)

◎シートン全集(シダー、マウン 五、永井荷風集(勲章、踊子その) 一九日 四日高三卒業は験開始 区 月 OH OH 予錢会 クル終了

スの提供を行う。 (上斗米)

載にならなかった寄稿者に対して 0有志諸君に色々と手伝ってもら 埋没した原稿 も相当数あった。 掲 った事等を感謝する。 事を運ぶ事の出来た事、並びに ▽図書委員の好意により寒い所で 編集する事もなく、スムースに仕 今回は寄稿者が多く、そのため

-各種万年筆の専門店 伝 統と歴 史を誇る

堂

盛岡市中ノ橋通リ

高三の記念アルバム

電話 二六二一番

成に当っている。 式のとろで、松尾写真館がとの作 なお、費用は約千円、完成は卒業 ムの作成を急いでいる。 験勉強の合間に、卒業記念アルバ 浜悟史、泉沢利之、昆事君等が受 本業を目の前に控えて、高二の秋

なつかしく思い出す事があるだろう。 パムを、何年か後皆が偉くなった は悲しかった出来事を納めたアル 時に見て、岩手高校の学生時代を 二年間の高校生活の楽しかった或

ル終了

▽本年度最後なので、素晴らしい 編 室

ちのをと計画したが、どう手をつ

ならず、実現には至らなかった。 載せようと思ったが、思うように けて良いかわからない。 スポーツの方も今年度の回顧を

は思ったより楽にすすんだ。 の片隅を借りて編集したので仕事 前号の時と異り、暖かい図書家

記事の不足に悩まされた。ニユー を投り出して『人生』?を弁ずる に集まる学友と話がはずみ、ペン ものだから手間どってしまった。 今度もまた、例に依って小さい ただ学習のためや、読書のため

は、真にすまないが、次回の利用 行は、五月上旬の予定。 をお願する。尚、新年度第一回発